

「3.1 独立運動 100 年」にあたっての声明

2010年7月、日本バプテスト連盟理事会は「『韓国強制併合』100年の悔い改め」声明を発し、隣国に対して自国が行ってきた過ちを悔い改め、「心の底から新たにされて」（エフェソ 4:23）、これまでのようではなく、新しい関係に生きて行く決意を表わしました。

そして、2019年、わたしたちは「3.1 独立運動」100周年をむかえます。1910年の「韓国強制併合」から9年後の1919年2月8日、11名の在日留学生たちによって起草され、東京 YMCA 会館で約600名の留学生たちの前で発表された「2.8 独立宣言」は、大日本帝国の軍事支配下における朝鮮半島の人たちの自由と解放への希望となりました。それから間もなくの3月1日には、33人の宗教者代表（うち16人がキリスト者）の連名による「3.1 独立宣言」がソウル・タプコル公園で読み上げられ、その後朝鮮半島各地へと拡がっていったのでした。そしてそれは民衆の義と信仰のゆえの闘い、神ならぬものへの不服従に徹する非暴力抵抗運動でした。

この「独立宣言」は冒頭に「自由」を宣言し、その自由を妨げる侵略主義や強権主義を戒めます。武力による支配を否定し、人道を武器とし構築する新しい東アジアの関係、友好な時代が開けることを望む、その見据えた世界の大きさと広さに感動しないではいられない内容です。しかし現実には甚だしい日本の弾圧により多くの運動家や民衆が犠牲となりました。そしてその悲惨な事実は世代を超えて今も語り継がれているのです。

「独立宣言」から100年、今わたしたちはあらためて、朝鮮半島の人々を虐げた歴史的事実を心から悔い改めると共に、その宣言が指し示す新しい関係を心から願い求めて祈ります。

昨今の国内情勢は、代替わりにおける皇室行事の宣伝を通し天皇賛美へと駆り立てられる雰囲気になり、一方では海上自衛隊機への韓国軍レーダー照射問題等を殊更取り上げ、あえて対立を煽るかのようなメディアの情報に溢れています。また、未だ真実な謝罪も清算もされない日本軍「強制」慰安婦問題や徴用工問題には目も向けず日本政府の不誠実な姿勢が両国間に深刻な陰を落としています。

このような危惧すべき状況の中、そして、依然として世界を支配する武力による統治に対し、わたしたちは「剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない」（イザヤ 2:4）という終末の平和を望み見て歩んでいきたいと思えます。日本国内のみならず、世界中に渦巻く排外主義に「否」を唱え、差別の壁を壊し、乗り越えて共に生きる道を求めて参ります。それがこの「独立宣言」100周年の節目に立つわたしたちの決意です。

「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。」（マタイによる福音書 6 章 33 節）

2019年3月1日

日本バプテスト連盟理事会